

## 【講師の先生による指導講評】

〔STEAM 教育専門員 大場 寿子 先生〕

- ・講師の先生から、「各グループのリーダーは、自分のグループの人にあげたいどんぐりを取りに来るように。」と言われた。その際、「どれがいいかな。」と悩んだことが『相手意識』であると、実際に体験を通して教えていただいた。
- ・各自配られたどんぐりについて、好きな理由やいいなと思った理由を考える。
- ・1年生がどんぐり拾いに行った際に、「かわいいな」「このどんぐり好きだな」と愛着をもてるようにさせる。また、教員が「握ってごらん」「振ってごらん」などと動詞を使ってどんぐりとしっかり関わらせ、拾うだけでなく、良さの発見をさせることが大切である。
- ・配られたどんぐりで、自分ならどのような遊びを考えるかグループで話し合い、共有したことでアイデアが広まった。

## 【研究の様子】

- 秋の自然を使ったおもちゃ作りについて、「当たりを作る」「レベル分けをする」というキーワードを提示したことで、最終的に遊んでもらう幼稚園児に対する相手意識をもって活動に取り組むことができた。
- 互いのおもちゃで遊び、「いいねマーク」と「ひらめきマーク」で振り返りを行ったことは1年生の発達段階に合っていた。「ひらめきマーク」をつけた児童が、改善点をしっかり話すことができていた。
- 「今日したいこと」をこどもたちがしっかりもって活動することができていた。そのため振り返りもしっかり書くことができた。

## 【研究授業の様子】

